

圏央道の開通でまちが元気に 目指すは「便利な田舎」都市

江戸の御成街道、現代の圏央道

東金市は昨年(平成26年)4月、市制60周年の節目を迎えた。昭和28年にまず東金町ほか5村の合併で東金町となり、翌29年に山武郡2村の一部を編入する2段階合併を経て、千葉県下13番目の市として誕生した。

合併当時の人口3万5000人弱は、52年後の平成18年に6万1518人に達してピークを迎え、それ以後は緩やかな減少傾向にある。しかし、人口は平成27年8月現在でも6万人台を維持しており、世帯数(約2万6000世帯)は人口ピーク時の平成18年(約2万3000世帯)に比べ、逆に3000世帯近く増えている。

また、人口動態を見れば全国共通の少子高齢化傾向にあるものの、15歳〜64歳の比率が常に60%台の半ばを維持しており、出生率は近年、むしろ上昇傾向を見せている。ベッド

タウンとしての急成長が一段落した後も、子育て世代を中心とする働き盛りの世帯の転入が、安定的に続いていることが背景にある。

「千葉県は高度経済成長時代から平成10年代半ばに掛けて、全国でもトップクラスの人口急増地帯となりましたが、中でも東金市とその周辺地域は、東京都心部からも近いベッドタウンの好適地として、木更津市や浦安市などととも人口を大きく伸ばしました。ここ10年ぐらいは少子高齢化などの全国的な傾向がこの地域にも及び、少しずつ人口を減らしていますが、東金市は平成4年に開学した城西国際大学が当初の2学部2学科から現在は8学部9学科、6大学院研究科および博士課程も備えた総合大学に拡大しているほか、千葉県立農業大学校(昭和54年千葉県農業大学校として開校)や千葉県警察学校(昭和61年設置)が立地するなど、若者たちの教育施設が多く、そうした環境も人口減少傾向をある程度抑止している面があると考えています」

そう語るのは志

賀直温・東金市長である。志

賀市長はさらに「60年前の市制施行が、高度経済成長時代以降の東金市の人口を順調に伸ばしたきっかけになった一方で、東金という地がその周辺地域における物流・人流の集散地となっていていくそもその契機は、400年前における東金と徳川家康公との地縁に行き着きます」と続ける。

慶長18年(1613年)、徳川家康公は時

し なおほる
賀直温
東金市長





御成街道終点の八鶴湖。家康公が過ごした東金御殿は現在、湖畔の県立東金高等学校

の佐倉城主・土井利勝に東金での鷹狩の準備を命じる。土井利勝はそのため、船橋と東金を直結させる約37kmの新道（御成街道）をわずか1カ月程度で造成。併せて家康公の休憩・宿泊所として敷地6700坪の東金御殿（現・県立東金高等学校敷地）を建設する（東金市教育委員会編さん『歴史と自然をめぐる道』より）。

かくして徳川家康公による東金での鷹狩は、大阪冬の陣の直前に当たる慶長19年



うっそうとした木立が今も徳川家康公の時代をほうふつさせる御成街道

（1614年）という重要な時期の正月を皮切りに始まり、2代将軍・秀忠公にも受け継がれた。その後、船橋まで直結すること御成街道は九十九里地域の農産物や海産物を江戸へ運ぶ重要な流通ルートになり、付随して東金は宿場町・商業集積地として繁栄するようになる。

東金市は現在、山武市、大網白里市、九十九里町、芝山町、横芝光町の近隣2市3町とともに山武郡市広域行政組合を形成し、さまざまな広域連携事業を実施している。この3市3町による広域圏Ⅱ山武地域の連携は、船橋を経由して江戸方面に向かう御成街道の起点・東金を集散地とし、周辺地域がそこに農産物や海産物を納入したり労働力の供



圏央道東金JCT

給源ともなった、400年来の伝統に基づいたものでもあるだろう。
だからこそ東金市にとって、市制60周年（平成26年）の節目はもちろん重要だが、「徳川家康公とのご縁の始まりから400周年（平成25年）」という歴史も、同じように大切な節目だった」とする志賀市長の言葉は大いに納得できる。

圏央道開通のさまざまな波及効果

それにしてもわずか1カ月程度の工期（沿道97カ村の村人を総動員したとされる）で、約37kmの新道（御成街道）が誕生したインパクトは、当時の人々にとってかなりのもの

だったろう。外房の海岸線から10kmしか離れていない東金が、房総半島の江戸へのとば口である船橋まで、ほぼ直線路で結ばれたのだ。中山間地に首都と結ばれる高速道路が一気にできたようなもので、恐らく現代の感覚では想像もつかないような交通利便性が、東金および九十九里地域にはもたらされたことだろう。

同様に事業構想の策定から30年近くが経過した平成25年4月によりやく開通した圏央道（東金JCT～木更津東IC間、約43km）も、工期という面では1カ月程度で造成された御成街道とは対照的ではあるものの、現代の東金市にとって「第2の御成街道」の開通ともいべき、実にさまざまな恩恵をもたらしてくれるものとなったことは間違いない。

圏央道（千葉区間）の東金JCT～木更津東IC間の開通から3カ月後の「整備効果」について、国土交通省は平成25年10月の段階で早くも次のようなニュースリリースを出している。

◇圏央道を利用する高速バスが20便増加。バスルート変更に伴い所要時間が短縮され、バス利用客も2割増えた。◇県内観光地へのアクセスが向上したことで、観光客が約16%増加したエリアも出現。◇市場への所要時間が短縮したことで、房総地域の新鮮な農水産物をより早く輸送することが可能になった。◇搬送時間が短縮されたことにより、専門性の高い病院への搬送が増加した。さら



東金市と山武市にまたがる食虫植物群落(国指定天然記念物)

に道路線形もよくなったため、患者さんの負担が軽減された。

東京湾アクアラインの房総側起点である木更津と東金が一気に結ばれた圏央道と、東金～船橋間を結ぶ旧御成街道は、その効果において見事に重なって見えるのが面白い。それはともかくとして、前出の国土交通省のニュースリリースは、千葉県全域に対する整備効果という形で発信されているが、直接的には東金市をはじめとする広域圏・山武地域にもたらされた《圏央道開通効果》の意味合いが大きい。圏央道から東京湾アクアラインを経由して羽田空港、東京駅にも直結することになったのである。

「圏央道の開通によって、まず東京までの



東金はぶどう、すいか、イチゴなどを産する果実王国

ルートが2つになり、ともに約1時間で行き来できるようになりました。その効果は山武地域全体において観光面、物流面などに顕著ですが、東金市に限れば私が市長に就任する直前の平成9年度から分譲を開始して、まだ立地の少なかった約100haの工業団地・千葉東テクノグリーンパークへの企業進出が急速に進んだことが挙げられます。それから昨年4月に、千葉東テクノグリーンパークの一面にオープンした東千葉メディカルセンターへの救急搬送の状況が大きく変わりました」（志賀市長）

東千葉メディカルセンターは地方独立行政法人東金九十九里地域医療センター（設立団体・東金市、九十九里町）が運営する、人口



地域医療圏の核となる東千葉メディカルセンター



東千葉MCハイブリッド手術室（カテーテルを使う内科的治療と外科手術による治療法を1つの部屋で行える）

地域医療を変えた 東千葉メディカルセンター

東千葉メディカルセンターは、これまで山

約22万人を抱える山武地域の地域中核病院だ。総合病院としての役割の中でも、2次・3次救急医療および急性期医療、さらには4疾病（がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病）に対応する高度専門医療などにとりわけ力点を置いた運営に特色がある。現在のところ18診療科を標榜しているが、平成28年度中のフルオープンの際には23診療科（ベッド数314床）になる予定だ。

武地域の医療を支え、昨年3月末に閉院した県立東金病院（昭和28年開院）の一部医療機能を引き継ぎ、救急医療・急性期医療を核とした地域中核病院として、地域におけるさまざまな医療の課題に対応すべく開院した。喫緊の課題は、それまで4割近くが地域外の病院に向けられていた緊急搬送における受け入れ体制の整備である。

高度経済成長時代以降に人口が急増した千葉県は、医師・看護師不足が共に全国のワースト3に入るといって、医療環境問題を抱えている。特に山武地域は、県内の他地域と比べ救急搬送受け入れができる医療機関がさらに少なく、千葉市や成田市、旭市などの病院に

振り向けられるケースが少なくなかった。そのためドクターヘリの稼働数が高い地域ともなっていた。

「地域外への救急搬送は時間も掛かりますし、そのために救急できないところがあった《生命》も少なくないのではないかと、いつも胸の痛む思いを持っていました。そこで昨年の東千葉メディカルセンターの開院に当たっては、年間1600件ほどの救急搬送を受け入れようという想定でいたのですが、実際には2300件を超えました。結果的に地域外への救急搬送も開院前と比較して約15ポイント改善したというデータがあり、まずは部分開院にこぎ着けた効果が出始めたのかなと、少し安堵しているところですよ」（志賀市長）

平成28年度のフルオープンに向けては現在、皮膚科や眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科など未開設の診療科設置が着々と準備されている。特に子育て世代に人気の高いベッドタウンとしては、周産期医療を担う産科（婦人科は既設）の医師の確保を急ぎたいところだが、千葉大学医学部附属病院の東金九十九里地域臨床教育センターを併設



平成24年度から看護学部が開設された城西国際大学

する東千葉メディカルセンターであっても、全国的な産科医不足の影響で、めどは立ちにくいのが現状だという。だがそうした課題があっても、圏央道の開通と同時期に開院し、救急搬送体制に顕著な効果を示している東千葉メディカルセンターへの地域の期待は非常に大きい。

医師の数と同時に全国的なレベルで不足が続く看護師については、平成24年度から城西国際大学に看護学部が誕生し、その1期生が現在最終学年を迎えている。東金市では今後も城西国際大学看護学部への志望者および、卒業後に東千葉メディカルセンターへの勤務（原則4年以上）を希望する学生を養成するために、東金市看護師養成修学資金貸付制度を



東金の物産と元気があふれるみのりの郷東金のオープニングパレード

平成26年度末から開始した。東千葉メディカルセンターに4年以上勤務した者には修学資金と入学支度金の返還が免除される手厚い制度だ。こうした側面支援とともに、周産期医療の確立などに向けた東千葉メディカルセンターの今後の運営に注目が集まっている。

みのりの郷東金と まちの駅ネットワーク

圏央道開通の効果が東金市内で最も現れているのは、東千葉メディカルセンターと同様に、圏央道開通と同時期にオープンした産業交流拠点施設《みのりの郷東金》（第三セク



植木と盆栽でも知られる東金(みのりの郷東金)



東金の物産と元気があふれるみのりの郷東金

東金市

市 政 ル ポ

(千葉県)



地域のあらゆる業種・団体等が加盟する「まちの駅」ネットワーク

ター「東金元気づくり株式会社」による運営だろ

みのりの郷東金は植木のまちとして全国的に知られる「東金市緑花木センター」跡地(約2・6ha)に建設された。東金市特産の農産物や果物(米、イチゴ、ぶどう、プラム、ブルーベリーなど)の直売施設「東金マルシェ」、さまざまな植木および花卉^{かき}などを取り扱う緑花木市場に、イタリアンレストランが併設されている。また東金マルシェ内のイベント広場は、世代を超えた市民サークル活動の発表の場となっているほか、平成26年のクリスマスには城西国際大学の留学生(17カ国)たちによるイベント「世界のクリスマス」が開催されるなど、地域に元気の素を振りまく交流拠点と

してすでにフル稼働している。

元気の素といえば、東金市が平成22年度から開始した「東金市元気アップ計画」も面白い。東金市をはじめとする山武地域の近年の商業事情は、社会の進展に伴って、交通量の多いバイパス沿いへの外部資本の進出がやはり目立つ。半面どうしても、宿場町時代からの伝統がある、旧道沿いおよび中心市街地に立地する地域の事業者の苦戦が続く。

「東金市元気アップ計画」はもともと、こうした状況を打開するため、地域の商店や事業所、集会所などの「まちの駅」化およびそのネットワーク化から着手された。まちの駅が市内随所にあることで、来訪者への案内業務や地域住民に対する情報発信など、既存施設に公的な機能を新たに付与して、結果的にコミュニティの再生や防災・防犯の拠点化、高齢者や子どもたちの見守り機能をはじめとした福祉的役割なども担ってもらおうとの試みだ(東金市元気アップ策定委員会作成資料より)。同時に空き店舗対策(学生や女性によるチャレンジショップなど)や地域ブランド創出など、地域経済の活性化に一石を投じようとする施策も着々と実行に移されている。NPOや地域住民による市民提案型の協働のまちづくりが、平成25年度から併せて活発化しつつあるが、これも元気アップ計画と連動する力になれば、相乗効果も期待できる。

ところでまちの駅のネットワーク化について

では、千葉県内に42カ所設置されているまちの駅のうち、東金市に40カ所が集中している。みのりの郷東金、東金市役所もまちの駅の認可を受けたネットワークの一つだ。

まちの駅の駅長会議にも出席する志賀市長は、「最終的に東金市を便利な田舎にした」と語る。東京駅へは定期高速バスで約1時間。徳川家康公が魅了された自然の名残も田園地帯も豊富にある。東千葉メディカルセンターの拡充化で医療環境のさらなる改善が見込まれ、市民活動を核とする元気の素も多角的に動き始めた。東金市の現況は既に「元気かつ便利な田舎」の様相を呈しているといえる。

(取材・文 遠藤 隆／取材日平成27年8月5日)



毎年夏に開催される市民総参加のYASSAフェスティバル